

顔

「血糖値をコントロールできない糖尿病患者は、算数ができない子どもに似ている。どこかでつまづいて自信をなくしているだけです」。話しぶりはまる

おかだ
岡田 浩 さん 49



撮影・大西健次

で先生。それもそのはず。40歳で薬剤師になるまでは、小中学校の教師や塾講師だった。

患者との関わりを楽しそうに語る薬剤師の姿を見て、大

学の薬学部に入学。

新人として働いた薬局でベテランと勘違いされ相談に乗るうちに、

患者の話聞くだけで、生活習慣が改善され、血糖値が良くなっていくのに気がついた。

「一方的に薬の説明をして飲みめと指導するのは、意欲のない子に勉強しろと言うのと同じ。患者の生活や考え方に理解を示すことで、自身の問題に気づき前向きになる」

京都医療センターや京都大で患者の支援効果について研究を開始。成果を生かし、患者を支援できる薬剤師を育てる研修も全国で行う。

自作のインスリン注射の模型やプリントで治療の大切さを伝える姿も元教師ならでは。「外の世界から来た自分だから気づけたこともある。薬剤師は患者が本来持っている力を引き出す手伝いができると伝えたい」

(医療部 岩永直子)